

2018.12.14

日本銀行山形事務所

今回山形短観における主な判断、事業計画の動き

(2018年12月調査)

1. 業況判断

12月調査では、製造業、非製造業とも悪化し、全産業では6と前回調査から8ポイント悪化した。因みに、前回調査では悪化、水準は12を予測していた。

製造業・・・電気機械、はん用・生産用・業務用機械などが悪化したため、全体では11と前回調査から10ポイントの悪化となった。前回調査では、水準は20を予測していた。

非製造業・・・運輸・郵便が改善したものの、建設、卸・小売などが悪化したため、全体では2と前回調査から5ポイントの悪化となった。前回調査では、水準は5を予測していた。

先行き(2019年3月予測)は、非製造業がわずかに改善となるものの、製造業が悪化するため、全産業では3と3ポイントの悪化を予測。

2. 売上・収益計画

(1) 売上高

2018年度(計画)は、製造業は前年度比1.9%の増収、非製造業は同▲1.4%の減収となり、全産業では同0.4%の増収計画。

前回調査との比較では、製造業(修正率▲1.5%)、非製造業(同▲0.4%)とも下方修正され、全産業では▲1.0%の下方修正となった。

(2) 経常利益

2018年度(計画)は、製造業は前年度比▲7.3%の減益、非製造業は同▲1.0%の減益となり、全産業では同▲5.3%の減益計画。

前回調査との比較では、製造業(修正率3.4%)、非製造業(同1.1%)とも上方修正されたため、全産業では2.6%の上方修正となった。

3. 設備投資額（含む土地投資額）

2018 年度（計画）は、製造業は前年度比▲21.1%の減少、非製造業は同21.6%の増加となり、全産業では同▲6.5%の減少計画。

前回調査との比較では、非製造業（修正率 7.5%）が上方修正されたものの、製造業（同▲6.7%）が下方修正されたため、全産業では▲0.9%の下方修正となった。

4. 雇用

雇用人員判断・・・ 非製造業の「不足」超幅がわずかに拡大したものの、製造業の「不足」超幅が縮小したため、全産業の「不足」超幅は▲34 と前回調査比わずかに縮小。先行き（2019 年 3 月予測）の「不足」超幅は再び拡大を予測。

新卒採用計画（全産業）・・・ 2018 年度、2019 年度とも前年を上回る計画。前回調査（6 月調査）との比較では、2018 年度（修正率▲1.1%）、2019 年度（同▲10.4%）とも下方修正となった。

以 上